

令和4年度 第2回図書館協議会 会議録

○日時 令和5年3月29日(水) 10:00~11:30

○会場 恵庭市立図書館本館 会議室

○出席者 委員

会長ほか5名

事務局

教育部長、読書推進課長、読書推進課主査

図書館長(指定管理者)

※教育部長は別途公務のため途中退席

○傍聴者 1名

<次第>

◆会長あいさつ

◆教育部長あいさつ

◆議題 1) 令和5年度図書館の事業計画について
2) 図書館恵庭分館の開館時間等について

◇質疑

A委員 先日公表された全国調査によると、特に高校生について不読率が上がっているようである。潜在的な来館者層について開拓の必要性を感じる。図書館単館の施設よりも、複合的な施設のほうが利用の増加が見込められるので検討願いたい。他県の図書館で、図書館と隣接してワークスペースを設置しているところがある。図書館で学んだことを即実践できるような施設になるとよい。また、文教地区全体での取り組みとして、大学等、関係する施設との横の連携を探ることはできないか。図書館アンケートは、来館者以外からも回答を得られるようにすることが大事。

事務局 図書館の将来的な大規模改修計画について、現在話が始まっているところである。その際、市民の意見を様々な形で聞くことを考えている。学びをそのまま活かすことのできる図書館についても、コロナで中断のあった事業も含め、指定管理者との調整を進めていきたい。

B委員 改修についてはそんなに話が進んでいるのか。

事務局 改修を実施したいという課としての考えは以前よりあったが、実現には全庁的な調整が必要であり、それがようやく動き出したところである。

C委員 島松分館も老朽化しており、併せて改修を進めてほしい。恵庭市は「読書のまち」としてのパワーが落ちてきていると感じる。

事務局 コロナも落ち着いてきており、これから「読書のまち」の機運を高めていきたい。島松分館についても立て直しの計画があり、複合施設となる予定である。

B委員 ブックスタートはどれだけ定着しているのか。朝読（あさどく）はどうか。実際に様々な取組を行っているにも関わらず、取組の内容が見えるようになっていない。大事なものは残していかなければならない。恵庭市がこれまで培ってきた読書推進活動という財産を大切にしていくことが重要。

D委員 自分の子どもも読書のまちの恩恵を受けてきたと感じているが、今ではそれが当たり前のような雰囲気になってしまっている。長く継続している事業について内外へのアピールに乏しいのはもったいないことである。

E委員 図書館アンケートについて、今現在来館していない人への調査方法が課題ではないか。

事務局 様々なアンケートの実施方法を考えたい。

F委員 読み聞かせ等の現場で最近感じるのは、以前より読むのが苦手になっている子どもが見られるということ。

事務局 対策について、今後も会の意見を伺いたい。

事務局 3月17日に行われた「図書館ボランティア交流会」に於いて、参加したボランティア団体から「図書館で行われるおはなし広場に参加する子どもが減っている」との意見があった。今後は「おはなし広場」の実施場所に、図書館外である市内の保育園等を含めていくことも検討したい。

○報 告 令和4年度図書館利用者アンケート調査結果について

◇質 疑

F委員 資料17頁一番上「新聞を読んでいるだけの人がいる」との意見があるが、資料としての新聞の位置づけはどのようなものか。

事務局 図書等、他の資料と同じである。意見内で指摘されている行動に基本問題はないが、

同時に数紙の新聞を確保するような行為には声掛けを行っている。

A 委員 資料 17 頁一番上「マナー悪い人（うるさい等）は注意してほしい」との意見があるが、入館者の利用内容に応じた空間分けを行うとよいのではないかと。子どもが集まる場所と静かに読書をしたい人の距離を離すことで状況の改善が得られると考える。

事務局 空間分けについては各所より意見・要望をもらっている。現在の社会情勢と将来的視点をどのように盛り込むか、さらに意見を集めていきたい。

F 委員 集まった意見とその回答について、どのように周知を行うか。

事務局 本館 2 階ギャラリーでの周知を検討している。

A 委員 恵庭市のポータルサイト「えにわか」を利用して図書館アンケートを実施してはどうか。

事務局 「えにわか」は観光ガイドとしての機能が重視されているところもあり、アンケートの実施は市ホームページを利用することを考えている。

○その他・情報交換

事務局 令和 5 年度は「恵庭市読書活動推進計画」前・後期 10 ㇰ年の最終年である。そのため、ここからの 1 年は次期推進計画策定に向け、市民からの意見聴取等を経て素案の作成にかかっていく。併せて、前述の大規模改修に係る方向性についても意見を募ることとなる。今年度の図書館協議会開催回数は本日を含めて 2 回であったが、次年度は 4 回を予定し、推進計画策定及び大規模改修に向けて意見を伺ってきたい。

事務局 令和 3 年度の要覧が完成したので配付する。図書館開館 30 周年を記念し、開館からの歩みを辿った新聞記事の掲載などもある。

A 委員 読書離れ対策として、電子図書館の拡充が必要と考える。併せて、インターネット検索の強化や館内パソコンの設置増もあるとよい。

事務局 電子資料の購入については、契約上利用期間や利用回数が制限されており、そのこと踏まえて計画的に行っている。ひとつにタイトルについて同時貸出人数に制限のない「読み放題」のタイトルも用意している。10 月の読書推進月間には、「広報えにわか」に図書館の利用促進に関する記事の掲載を予定している。

C 委員 恵庭まちじゅう図書館の登録状況はどうか。（事務局より「42 館」と回答。）この事業をさらに推し進めていくべきである。全国的な知名度もあり、市全体の読書活動推進に大きく貢献するものとする。自治体主体で力をいれていく考えはあるのか。

事務局 まちじゅう図書館は、市内店舗等において、そこで働く人が自分の蔵書を公開し、もって市民とのコミュニケーションを自主的に行う事業。行政側は参加施設のマップを作成するが、活動内容の詳細な指示や、横の繋がりを組織化を強いるものでもないという立場で実施してきた。コロナ禍により、施設内の不要な接触が回避された結果、蔵書公開を中止する施設も現れ、年度毎のマップ作成及び参加施設有志による行事「スタンプラリー」も中断している。「コロナ後」の観点からも同事業の実施方法を見直す時期に来ていると考えるが、参加施設の自主性に任せてきたこれまでの流れを変更し、行政主導での事業牽引に舵を切るべきかは悩ましい問題である。

D委員 「スタンプラリー」企画で、自分の子どもが「一日館長」に当選したことがある。図書館業務だけに留まらず、名刺交換を行うなどの特別な体験を用意してもらい、子どもも大変喜んでいて。コロナが落ち着いたら、またこのような企画が以前のように実現できればよいと考える。

A委員 新ひだか町の図書館では地元商店等との共同事業を行っており、相乗効果を上げている。参考になると思う。

～閉会